

大阪府立茨木高等学校 学校運営協議会 令和5年度委員等

委員

添田 晴雄（会長）
岩井 八郎（副会長）
柴田 仁
中村 卓
樫本 佳子
武田 和代

校長及び事務局員

高江洲 良昌（校長）
朝倉 淳（教頭）
藤山 恵里（事務長）
森 登紀子（首席）
森 佳希（首席）
林 幸広（教務主任）
長田 大樹（進路指導主事）
市田 友宏（生徒指導主事）

令和5年度 第2回学校運営協議会議事録

日時：令和5年10月7日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】 添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、武田和代

【校長・事務局】 高江洲良昌、朝倉淳、藤山恵里、森登紀子、森佳希
林幸広、長田大樹、（市田友宏 ※他の校務により欠席）

0. 会長藍沙里
1. 校長挨拶
2. 委員紹介・事務局職員紹介
3. 議事
 - ① 本年度の各取組みについて（中間報告）
 - ② スクール・ポリシーについて
 - ③ 教科書選定結果について
 - ④ その他
 - ⑤ 次回協議会日程

<校長挨拶>

<事務局からの「議事」に係る説明>

①本年度の各取組みについて（中間報告）

* 校長より、「学校経営計画」に沿って具体的な取組み状況及び生徒の様子を報告また、事務

局より個々の取組みについて説明。

委員： 高大連携の取組みは、生徒はもちろん先生方にとっても意味があるように感じる。卒業生がどのように活躍しているのか、目の前の学習の先に何があるのかを知る良い研修になっている。何より、担当の先生が楽しそうに語ってくれるのが良い。生徒にとって、先生が楽しそうということがとても重要。

委員： 同感である。

委員： 座学でない学びが、座学に生きる。社会に出てもコミュニケーション力やディスカッション力が必要。そういう学びは先輩から実践を通じて引き継がれていく。これこそが茨木高校の良さである。

委員： 他校の様子等は把握されているか。

校長： 学校による。同じ10校でもっと多い学校もあるのは事実。東京久敬会の存在も非常にありがたい。

事務局： 本校の良き文化・伝統であると感じる。

委員： 久敬会でも把握しきれていないが、活躍している卒業生はもっといるはず。各学年のネットワークが頼り。

委員： 母校に貢献できる、出番があるということを知らない方も多いと思われる。

委員： 大学院へ進学する数が少なくなった。文科省がしっかりとテコ入れをすべき課題ではある。

委員： 大学の働き方改革もまだまだ遅れている。

委員： 話を戻すが、天職はそう簡単に見つからない。目の前のことだけにならないこと。

委員： 多感な時期に、色々な経験をするのが大切。複数のメニュー、選択肢があるのが良い。

事務局： 東京スタディツアーなどは、入ったばかりの1年生が多く申し込んだ。体育祭で身近な先輩の取組みを目撃し、東京久敬会で卒業後のロールモデルとなるような人との出会いもあったと感じる。

事務局： 一方で、このような取組みに対して一部の保護者から「受験の妨げになるのではないか」というような懐疑的な声もある。委員の方々から見て、このような取組みをどのように捉えておられるか。

委員： 茨木高校の良さは、ぜひ生徒に直接尋ねてもらいたい。保護者も、もっと子どもの声に耳を傾けてもらいたい。体育祭や妙見夜行登山があったから、卒業生も茨木高校が好きで、ずっと関わりたいと思える。

委員： 例えば、茨木高校は文理融合クラスだが、大学も文理混合になっている。文系理系をきっぱりと分けるのは日本の中等教育のモデルだが、茨木高校はそれを昇華できている。日本の世の中や学問の世界が中々変化せず、学習指導要領も茨木高校の後追いになっている。リーダーを輩出するためには、狭い意味での学び、狭い世界にいるのではだめで、良い意味での「雑音」に触れていくべき。それこそ、川端康成氏の頃は、受験のためなどという尺度は無かった。

委員：ゴールをどこに設定するかが大切であろう。

委員：受験のみを見ると不利な戦略かもしれないが、長い目で見たときには、10年後にはきちんと育っている。あえて浪人させるようなことも意味があるのではないか。

校長：例えばGLHS審議会の英語教育の評価指標等で、短絡的な指標に惑わされないようにというような意見も出ていた。

② スクール・ポリシーについて

校長より説明→承認

③ 教科書選定結果について

校長より説明→承認

委員：電子教科書に加え、最近はYouTube等でも高校生向けの授業が配信されている。そういったものを利用することで、もっと探究的な活動ができるのではないか。

校長：あえて板書で授業を行っている教科もあり、一律には言えないが検討していく価値はあると考える。

委員：料理と同じで、知識として知っているだけではできるようにはならないので、「自分はこのができないんだ。」とわからせることも大切。失敗してもいいことで失敗を経験してもらおう。余裕があれば、どんどん失敗させて、包み隠さず失敗をオープンにしていくようにするのが良い。

④ その他

*学校の働き方改革について

委員：教員の働き方改革は進んでいるか。

事務局：Googleフォームによる欠席連絡で随分と楽になった。保護者にとっても電話より利便性が上がったのではないか。

委員：保護者向けの文書送付（さくら連絡網）の使用料等はどこから支出しているのか。

事務局：学年費より支出している。

委員：先生方の業務量の総量は減っていないように感じる。中学校で実施されているような、部活動の地域移行などの対応を高校でも実施できるとよい。教職員の働き方改革の観点で取り組むことが重要。ICTの活用も大切だが、人員がまず増えないことには厳しい。小中学校であるような短時間（10時間）サポートも高校としてあるとよい。

委員：中教審でも教員を増やすことが求められている。実現されることを願う。

⑤ 次回学校運営協議会の日程

第3回学校運営協議会 令和6年2月17日（土） 14:00～